

療法名 **weekly PTX**

適応 **胃癌**
 抗癌剤適応分類 **進行・再発癌**

第2版	2022/2/1
登録番号	胃-8
登録年月日	2013年1月

投与順	抗癌剤名(一般名)	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	パクリタキセル® (パクリタキセル)	PTX	80mg/m ²	点滴静注	60分	d1,8,15

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
PTX	80mg/m ²	↓							↓							↓													

1コース期間 (次のコースまでの標準期間)	原則3投1休
総コース数	PDまで
コース間での休薬規定	白血球・好中球回復不良のときは1週間休薬して延期

減量規定・中止基準	チェックリスト参照
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	最短6日間
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	単剤のためなし
プレメディケーション	デキサメタゾン注6.6mg、ファモチジン注1A、クロルフェニラミン注1A点滴静注
ポストメディケーション	なし

主な副作用とその対策	白血球減少、好中球減少、血小板減少、貧血、末梢神経障害、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感、過敏症状、GOT/GPT、T-Bil上昇、悪心・嘔吐等
患者条件	チェックリスト参照
除外規定	チェックリスト参照
実施上の注意点	①過敏症の予防のため前投薬は必ず行う ②過敏症発現頻度が高い薬剤のため、初回投与はモニター装着する ③過敏症発現時は抗がん剤の投与を直ちに中止し、ステロイド、エピネフリン、抗ヒスタミン剤などを投与する ④蓄積性に末梢神経障害が生じるが、Grade3以上の場合は休薬する ⑤PACにより塩化ビニルから可塑剤溶出するので、専用の点滴ルートを使用する ⑥ケモセーフインフュージョンセットはフィルター付きを選択する

備考	なし
治療成績	本邦における後期第Ⅱ相試験では、奏効率は全体で23.3%、既治療例で28.3%の有効性を示す薬剤である。パクリタキセルの毎週投与では効果は同等ながら副作用はより低く安全性の面において従来の3週間毎の投与よりも優れているとする報告がなされている。奏効率において組織型(未分化型/分化型)での差はみられないことから腹膜転移症例への効果が期待されている。
その他	なし

参考文献 南江堂 リスク別 がん化学療法レジメン 改訂第2版